

つきたい力

- ・必要な情報を収集する力
- ・自分の考えを表現する力

取組みの概要・ポイント

- ・探究的な活動、指導と評価の一体化、図書資料活用、子ども主体の学び、言語活動の5つを全教員で意識
- ・単元目標の資質・能力をはぐむために有効な言語活動の充実
- ・授業づくりのための学校図書館の環境整備、読書活動推進のための取組み

単元目標の資質・能力を育成するための言語活動の設定を意識した授業づくり

①探究的な活動 ◆実践例：6年体育【体づくり運動】

ゴールの課題「運動の方法を解説動画を作成し、他学年に分かりやすく伝える」

ゴールを示し、目的・相手意識をもって学びに向かえる単元の導入の工夫

②指導と評価の一体化 ◆実践例：6年家庭科【こんだてを工夫して】

本時の目標：非常時の水や電気が限られた状況を想定して、非常食に追加する栄養バランスの取れた副菜のレシピを考えることができる。
〔思判表〕

A	B
さらにつけくわえる食材を考えることができる。	非常時を想定した調理方法で栄養バランスの良いこんだてをつくることができる。

ループリックを児童と共有することで、BさらにはAをめざして話し合う言語活動が充実し、目標に向かうことにつながる。

③図書資料活用 ◆実践例：1年生活【あきとなかよし】

実物を使って、どんぐり手帳を作成し、交流する学習活動を設定。

どの木のどんぐりかを調べるために、教科書、図書資料を活用することで、拾ったどんぐりをじっくり観察することにつながる。

④子ども主体の学び ◆実践例：5年社会【自動車工業のさかんな地域】

教科書を読み、情報を結び付けながらノートにまとめる学習活動を設定。

クラウド環境を活用し、ループリックやスプレッドシートを共有。個人でまとめたり、友達に尋ねたり、学び方を選択して児童が主体的に学べるようにする。

⑤言語活動 ◆実践例：2年国語【たんぱぼのひみつをみつけよう】

単元目標：時間的な順序や事柄の順序などを考え、内容の大体を捉える言語活動「お花クイズの作成と交流」

つくったクイズを順序に着目して、グループで見直すことで単元目標の資質・能力の育成を図る。

学校図書館の活用

●環境整備

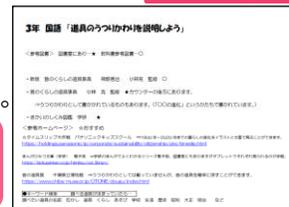


学習年間計画

図書活用ができる単元、調べ学習ができる単元を赤色で示す。

スムーズな連携で準備が円滑に

パスファインダー



使いやすかった図書資料を単元や活動ごとにまとめた。

次年度以降へ取組みをつなげる

●学校図書資料を活用した授業

◆実践例：3年国語【道具のひみつをつたえよう】

調べたいものとしていろいろな道具が児童から挙がってきた。学校図書館だけでなく、市立図書館や児童に分かりやすいインターネットサイトなど複数の資料を学校司書とともに準備。



●読書の推進

読書ビンゴ



主体的な選書を促し、読む本に迷う時間を減らすことで、読書時間の確保につながった。ビンゴ達成をめざしているいろいろな種類の本を読むことにもつながった。ビンゴをきっかけにシリーズものを読む児童もいた。

聞かせ読み

電子図書館の読み放題パックを活用し、全員で同じ本を見て、先生が読んでいる部分を目と指で追っていく「聞かせ読み」を行った。

読んでもらっているが、自分で分量の多い本を読んだ気持ちになることから、自分でも読んでみる児童が出てきた。



取組みを通しての子どもの変容

- ・「文章を書いた後には、読み手に内容が正確に伝わるかどうか、ことばの見直しをしている」の肯定的回答(4月80%→11月85%)
- ・貸出冊数の増加(4月～11月の貸出冊数 R5 6321冊→R6 7355冊→R7 8562冊 R5から一人当たり5.14冊増加)
- ・全国学力・学習状況調査国語の対府比「話すこと・聞くこと」(R6 0.91→R7 1.10)、「書くこと」(R6年0.84→R7年1.00)、「読むこと」(R6 0.84→R7 1.00)「情報の扱い方に関する事項」(R6 0.81→R7 1.25)

- ・学校報告動画
- ・パスファインダー
- ・読書ノート
- ・読書ビンゴは、[こちら](#)→

